

【小学校・中学校・義務教育学校用】  
令和7年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校名 **佐賀市立小中一貫校芙蓉校**

達成度(評価)  
A:十分達成できている  
B:おおむね達成できている  
C:やや不十分である

1 前年度 評価結果の概要  
・授業改善の1つとして、一人一台端末活用を進めた。その結果、児童生徒、教師ともに活用力が向上した。次年度は、端末活用は授業改善の手段であることを再確認し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組んでいく。  
・特別支援教育、教育相談、生徒指導が連携して児童生徒の指導・支援に当たることができた。次年度は、全職員が協働して指導・支援に当たるための体制を強化する。  
・業務改善・教職員の働き方改革を継続して推進する。

2 学校教育目標 **「学び ふれあい 伸びゆく芙蓉」**

3 本年度の重点目標  
・児童生徒が自ら学ぶ力を身に付けるための授業改善を進めることを通して、児童生徒の「思考力・判断力・表現力」の育成と学力の向上を目指す。  
・児童生徒の個性や特性に寄り添い、全職員が協働して特別支援教育に取り組む体制を強化する。  
・業務改善・教職員の働き方改革を推進する。

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目				最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業の実践	○「端末活用をしながら『個別最適な学び・協働的な学び』を意識した授業づくりを行うことができた」と回答する職員85%を目指す。	・端末活用をしながら、個別最適な学び・協働的な学びを意識した授業実践を1人1回行う。 ・授業実践後に、実践について職員間で交流することで、全体での学びを深める。	A	・2学期から1人1回授業実践を行い、授業実践後に職員間で交流を深めたことで、端末活用をしながら個別最適な学び・協働的な学びを意識した授業づくりを行うことができた。 ・12月の学校評価アンケートでは「端末活用をしながら『個別最適な学び・協働的な学び』を意識した授業づくりを行うことができた」の質問に対し92%の職員が肯定的な回答をしており、目標を達成することができた。	A	・職員同士で話し合い、校内研修を行うなど、意識ある授業づくりが行われている。 ・小中一貫校としての小規模校の特徴を生かし、児童生徒一人一人にきめ細やかな支援や指導をしている先生方の努力の成果である。 ・児童生徒数が少ないので、100%を目指してもらいたい。	○研究部 ○校内研修各部
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて、肯定的な回答をした児童生徒を85%以上にする。	・各学級でグループエンカウンターを実施したり、互いを認め合い感謝し合う言葉掛けの実践を促したりすることを通して、自己肯定感を高める。 ・人権集会後に振り返りや感想等を書かせ、他者の意見に触れさせ、多様な考えがあることを尊重させる。	・12月よりよい学校にするためのアンケート(児童・生徒)の「道徳」に関する項目では、肯定的な回答をした児童・生徒の割合は89%であったので、目標を達成することができた。 ・佐賀東高校の人権劇後の感想では、仲間の大切さに気付く感想が見られた。	A	・各学級でのグループエンカウンターの実施などを通じて、自己理解や人間関係の心理的成長が見られる。 ・人権意識を高める取り組みがなされていることは、高く評価できる。 ・不足する11%の原因をきちんと整理してもらいたい。	A	○道徳教育推進教員 ・人権・同和教育担当
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○問題行動やいじめの防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組事案対処等)について組織的に対応できると回答した教職員を90%にする。	・5月までにいじめの認知・認知に対する対応マニュアルの見直しを行う。 ・いじめの対応についての研修を年に2回以上行う。月1回の生徒指導協議会では、必ずいじめ事案と対応について情報共有する。	・学校評価アンケートの「いじめ対応 いじめアンケート等を定期的実施し、予防と早期発見を、学校全体で組織的に行っている」では、「達成できている」「おおむね達成できている」と回答した職員が100%であったことから数値目標を達成することができたと考えている。 ・いじめに関する研修と、月1回の生徒指導協議会で情報共有等を行うことができた。	A	・12月よりよい学校にするためのアンケート(児童・生徒)の「先生はあなたのよいところを認めていると思う」という項目に、肯定的な回答をした児童・生徒の割合は87%であった。 ・12月よりよい学校にするためのアンケート(児童・生徒)の「将来の夢や目標をもっている」という項目に、肯定的な回答をした児童・生徒の割合は89%であった。	A	・年2回以上のいじめ対応についての研修と、月1回の生徒指導協議会で情報を共有していることで目標を達成している。 ・いじめの撲滅、児童生徒間の交流の充実度に関して高い評価が出ていることは小規模校の大きな強みである。
●心の教育	●○児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上にする。 ●「将来の夢や目標をもっている」について肯定的な回答をした児童生徒を75%以上にする。	・児童生徒の資質・能力を育む授業づくりに関する校内研修等を実施する。 ・各種体験活動では、児童生徒に活動の見通しと学びの振り返りを行う活動を仕組む。 ・児童生徒の身につけさせたい力を明確にし、キャリアパスポートを活用する。	A	・12月よりよい学校にするためのアンケート(児童・生徒)の「先生はあなたのよいところを認めていると思う」という項目に、肯定的な回答をした児童・生徒の割合は89%であった。	A	・テーマに沿った校内研修やキャリアパスポートの活用により、目標が達成されている。 ・学校運営が家庭との綿密な連携を大切にしている。 ・先生方が児童生徒の良いところを認めていることはとても素晴らしいことである。	○キャリア教育担当 ・教務主任
	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に良い食事をしている」児童生徒を80%以上にする。	・給食だより、保健だよりを発行する。 ・養護教諭及び学校栄養職員と連携した食育に関する授業の実践を行う。 ・給食だよりや学校HPの「献立紹介コーナー」等を活用し、保護者に対し、望ましい食習慣や食事メニューの紹介と啓発を行う。	A	・学校評価アンケートより、「わたしは、健康な体になるために、何でも食べようとして、よく食べて食べています」に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した児童生徒は87%で、今年度も目標を達成した。このことより、望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成を図ることが定着していると考えられる。 ・2学期に行った授業実践は、その後の児童の「食」に対する意識を高めさせ、献立を工夫して行うようになった。	A	・担当の先生方が連携し、望ましい食習慣が児童生徒、保護者に伝わることで、食育の意識が高められている。自己管理も必要であるため、87%は良い結果だと思う。 ・食育の実践がなされている。今後も家庭との連携を密にして、より一層の取り組みを期待する。	○食育担当 ・保健主事 ・学校栄養職員
●健康・体づくり	○9年間を見通した生活習慣の形成	○基本的な生活習慣を身に付けている児童生徒を85%以上にする。	・小学部は「生活の四つの約束」、中学部は「生活の五つの約束」の趣旨を児童生徒・保護者に説明し、「立腰」等系統性をもって指導を行う。 ・各学期に生活習慣アンケートを行い、その結果をもとに家庭と連携して改善を図る。 ・清潔で整頓された学習環境を常に心がけ、正しい清掃の仕方を学ばせる機会を設ける。	A	・12月よりよい学校にするためのアンケート(児童・生徒)で項目ごとに達成できたと感じる生徒の割合は「挨拶」85%、「早寝・早起き・朝ごはん」80%、「生活の約束」86%、「宿題を終わらせる」91%であった。平均85.5%という結果から、数値目標を達成することができたと考えている。 ・各学期に小中中学部共に同時期に生活アンケートを実施したことは、家庭と連携して意識を高めていく手立てとなった。	A	・基本的な生活習慣には、家庭との連携が必要である。環境を整えることで、意識が高くなった。 ・「早寝・早起き・朝ごはん」は家庭のしつけになると思うが、もう少し改善してほしい。学校からの啓発に期待する。 ・地域に帰った子どもたちを見てみると、挨拶に関しては未だ達成とまでは感じないが、「これも個性なのか」。	○生徒指導担当 ・清掃担当
	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・業務記録簿をもとに職員全体及び個人の時間外業務について、月毎に振り返る場を設け、改善状況を振り返る。 ・年次休暇の積極的な取得を呼びかけ、年間14日達成、80%を目指す。	・業務記録簿をもとに職員全体及び個人の時間外業務について、月毎に振り返る場を設け、改善状況を振り返る。 ・年次休暇の積極的な取得を呼びかけ、年間14日達成、80%を目指す。	B	・教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守できていない職員数は中間評価より減少し、改善した。 ・長期休業中は、年次休暇の計画取得がなされ、12月までの取得目標平均12.5日であった。	B	・少しずつでも目標達成への改善が見られるが、教職員全員が最低年間年次休暇14日取得の目標には至らなかった。 ・時間外勤務を減少させることは大変厳しいとは思いますが、学校全体で取り組んでほしい。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○年間を見通した業務遂行の改善	○「今年度及び次年度を見通し、修正を加えながら業務遂行を図ることができている。」と回答する教職員の割合を80%以上にする。	・行事ごとの振り返りを確実にし、業務改善の視点を持って次年度の実施内容の見直しを図る。 ・行事や会議を効果的に削減、縮小し、児童生徒と向き合う時間を確保する。	A	・「次年度を見通し、修正を加えながら業務遂行を図ることができている」とする教職員の割合は92%で目標達成した。 ・今年度の行事等を振り返り、成果と課題を次年度の業務計画に反映させていくことができた。 ・会議等を効果的に進めてきたため、児童生徒に向き合う時間を生み出すことができた。	A	・今年度と次年度を見通すことができ、次年度への修正が反映されている。 ・行事は目的が何であるのかをしっかりと考えて計画を立てると良い。 ・92%は良い成果だと思う一方、8%は何なのかを整理すべき。	○副校長 ・教頭
	●特別支援教育の充実	○小中教職員の協働による特別支援体制の充実	○特別支援学級に在籍する児童生徒だけでなく、困り感をもっている児童生徒全ての学習機会を保障するために、意識をもって支援に当たる教職員85%を目指す。	・授業の乗り入れをはじめ、小中の枠を超えた積極的な関わりと指導・支援を推進する。 ・特別支援教育に関する研修会を、ミニ研修を含め年3回実施する。 ・入級児童生徒及び困り感をもつ児童生徒の保護者との面談を計画的に進め、具体的な支援、取り組み内容を保護者に説明する。 ・生徒指導協議会での情報共有を行う。	A	・学校評価アンケートにおいて、「支援を必要とする児童生徒に対し、個別的教育支援計画等のもと、小中の枠にとらわれことなく支援に当たっている」に対し、「できている」「おおむねできている」と回答した教職員は89%で、目標を達成している。 ・学校評価アンケートにおいて、「学校は、困り感のある児童生徒の支援を全職員で行っている」について、「わからない」と回答した保護者の割合が30%だったため、保護者向けに学校での取り組みをより広く伝えていなければならない。	A	・研修会をより多く行い、支援体制の整備が共通の理解へとつながっている。 ・全職員で児童生徒の支援にあたるのに、それがしっかり保護者に伝わっていないのが残念である。
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○地域連携による共有	○地域とのつながりを感じ、郷土を愛する心の育成	○年間の学校支援(GT等)を延べ150名以上とする。 ○「学校はホームページや学校だよりで、学校の様子を地域や保護者に伝えている」と回答する保護者の割合を85%以上にする。	・地域の方をGTとして活用する。 ・地域の方と児童生徒が交流している様子を学校だよりやホームページで紹介する。 ・学校だより「うんしん」を計画的に発行する。	A	・「学校はホームページや学校だよりで、学校の様子を地域や保護者に伝えている」と回答する保護者の割合は96%になり、目標達成した。 ・地域の方々や公民館、育友会に協力していただいたおかげで、農業体験や郷土に関する学習、防災教育などの学習が充実した。	A	・ホームページや学校だよりにより、学校の様子が分かり、地域との連携も取れている。いつも楽しみに読ませてもらっている。 ・学校と地域との関わりが活発に行われていることはうれしいことである。地域の方との交流・コミュニケーションを密にして、学校と地域との関係をもっと良好にして教育に生かしてもらいたい。	○副校長 ・教頭
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育								
5 総合評価・次年度への展望	<p>・一人一台端末活用を進め、小中一貫教育を意識し、見直しをもって授業実践を重ねたことにより、児童生徒の表現力が向上した。次年度は、小中の教職員の学び合いを継続しながら、さらなる学力向上を目指していく。 ・特別支援教育、教育相談、生徒指導が連携して児童生徒の実態把握をし、情報を共有しながら指導・支援に当たることができた。次年度は、児童生徒の個性や特性、困り感に寄り添うため、さらに全職員が協働して指導・支援に当たるための体制を強化する。 ・時間外在校等時間の上限を遵守するために、業務改善・教職員の働き方改革を継続して推進する。</p>							